

2006年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、高緯度については極付近で負偏差、その周辺に正偏差が分布した。一方、中緯度では北米東部からヨーロッパ、カスピ海付近にかけて波列状の偏差が明瞭で、特にヨーロッパの負偏差、カスピ海付近の正偏差が顕著だった。極東域では、カムチャツカ付近の正偏差が顕著だった。

熱帯の対流活動は、インド洋赤道域の東部からインドネシアにかけて不活発で、アラビア半島南部からパキスタン付近にかけて活発だった。フィリピンとその東海上では、8月中旬以降は不活発となった。上旬から中旬にかけて MJO が太平洋を通過した際、西部太平洋赤道域では対流活動の強まりが見られ、北西太平洋では台風が月の前半に5個発生した。

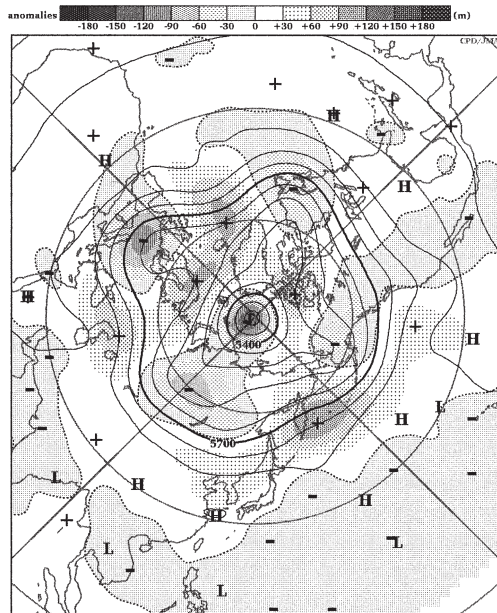
850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、ベンガル湾に高気圧性循環偏差、アラビア半島からインド北部、フィリピン付近からその東海上で低気圧性循環偏差が見られた。下層のモンスーン循環は8月前半に強まったが、後半にはやや弱まった。

SOI (南方振動指数) は-1.3 (暫定値) となった。

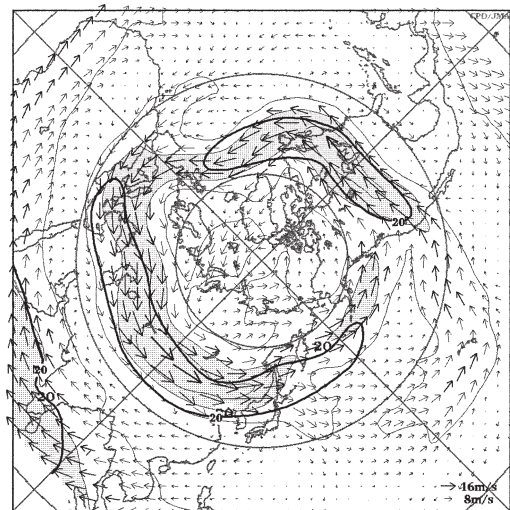
世界の天候

- ① 中国から東シベリアの高温
- ② モンゴルからトルコ北部の少雨
- ③ 中国中部からインド北部の少雨
中国西南部のスーチョワン (四川) 省周辺では、記録的な干ばつと高温により水不足や長江の水位低下などの被害が報じられた。
- ④ インド南部からカリマンタン島の高温
- ⑤ アラビア海周辺からインド中部の多雨
インド北部やパキスタンでは、モンスーンの大雨による被害が繰り返し発生したと報じられた。
- ⑥ グリーンランドからヨーロッパ北部の高温
- ⑦ ヨーロッパ北部の少雨
- ⑧ ヨーロッパ西部から東部の多雨
- ⑨ ヨーロッパ西部から中部の低温
- ⑩ 中東からアフリカ西部の高温
- ⑪ 米国中部からメキシコ北西部の多雨
- ⑫ オーストラリア南部の少雨
オーストラリア気象局によると、オーストラリアの8月の降水量は1900年以降で最も少なかった。
- ⑬ オーストラリア南西部の高温

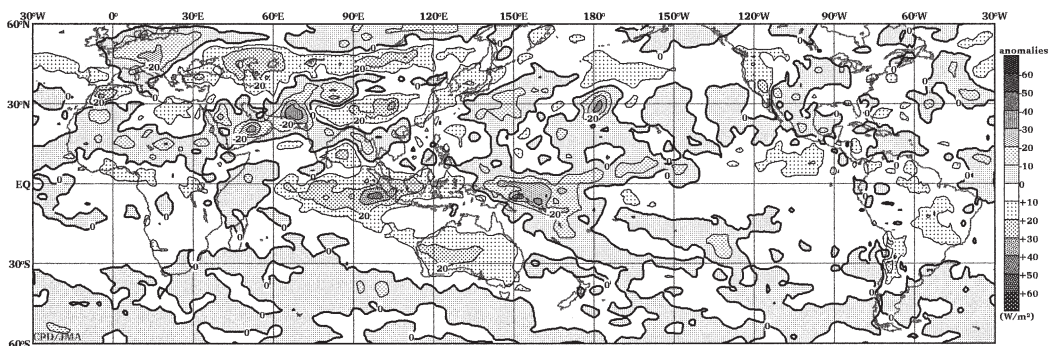
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 宮岡健吾)



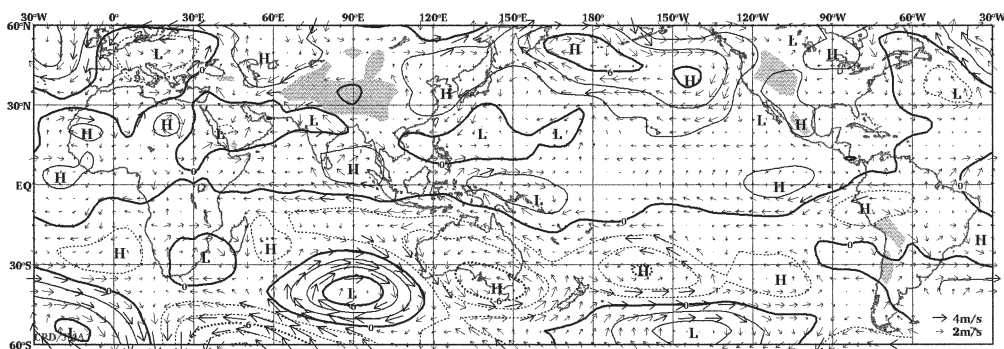
2006年8月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



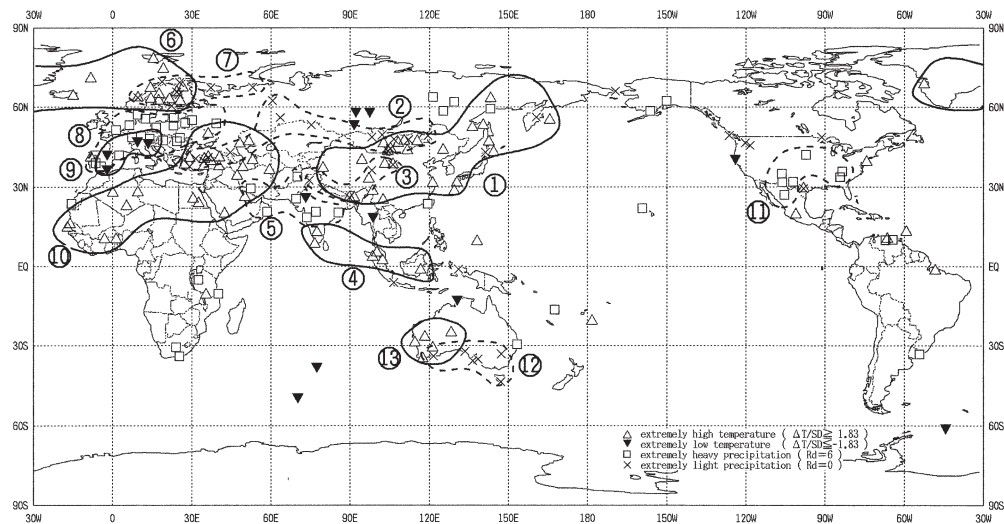
2006年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年8月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2006年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。